

財団いづも

第21号

発行所
 公益財団法人いづも財団
 〒699-0701
 島根県出雲市大社町梓築東283
 大社國學館内
 TEL 0853-31-4346
 FAX 0853-31-4348
 info@izumozaidan.or.jp
 編集発行人
 山崎裕二



島根半島両端の灯台が
 重要文化財に指定される！

理事長 古瀬 誠

去る令和四年二月九日に、美保関・出雲日御碕の両灯台が、文化庁から重要文化財に指定されました。現役灯台の重要文化財指定は国内では八例目ですが、県内では初めてのことです。この度、奇しくも島根半島の両端の灯台が指定されたこととなります。両灯台ともに、明治期の姿をそのままとどめた灯台ですが、今日もなお山陰地域における航路の安全や発展に現役として寄与していることが評価されました。

美保関灯台は、日清戦争後に活発になった海運を推進するた

めに、明治三十一（一八九八）年に美保関の地蔵崎にフランス人の指導によって建てられた山陰最古の洋式灯台です。灯台の高さは一四mですが、高台にあるために海拔は約八三mになります。

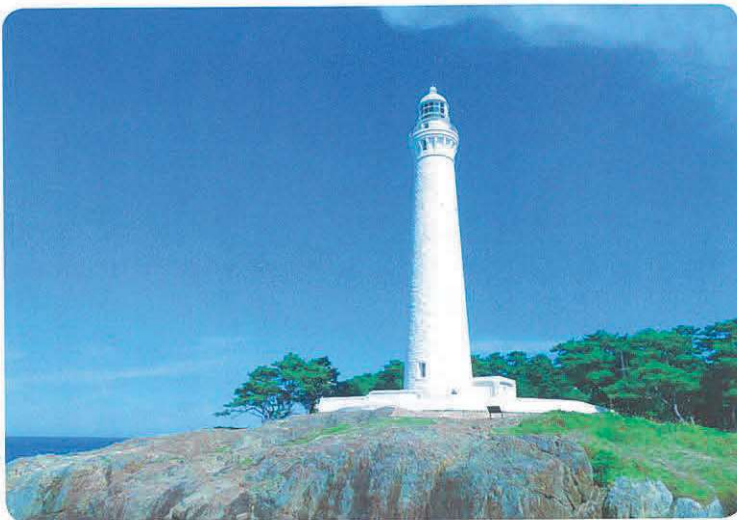
灯台ばかりでなく、隣接する灯台看守の宿舎、旧吏員退息所など、創建当時の灯台の基本構造や外観が変更されていません。旧吏員退息所は、現在レストランとして利用されています。

出雲日御碕灯台は、明治三十六（一九〇三）年に建てら

れました。石造りの灯台としては日本一の高さ約四四mを誇ります。日本人灯台技術者第一号の石橋絢彦あきひこの設計によるものです。構造は、世界でも稀な「外壁が石材、内壁がレンガ」という二重壁になっています。これは、スコットランド灯台建築技術の上に、地震の多いわが国の地理的条件も加味して設計された、日本人技師による明治の洋式灯台の到達点として評価されています。

なお、出雲では一般に「日御碕灯台」と呼んでいますが、正式な名称は「出雲日御碕灯台」です。これは、和歌山県の紀伊半島に「日ノ御碕灯台」があることから、これと区別するため、昭和十（一九三五）年から、このように命名されています。

今から約一二〇年も前から、地域の安心安全の確保と地域振興のためにあかりを照らし続けている両灯台の勇姿を、ぜひ現地に出かけて、その歴史の重みを実感してほしいと思います。



出雲日御碕灯台（出雲市大社町）



美保関灯台（松江市美保関町）

写真提供 出雲市文化財課

令和三年度の公開講座で「原始・古代出雲の歴史と文化」

を学びました！

第三回講座(令和三年十月二十三日(土))受講者数 六九名

会場 大社文化プレイスうらら館

主題 出雲の青銅器文化の展開

演題A 荒神谷遺跡発見から三十七年！「わかっってきたこと、わからないこと」
荒神谷遺跡を埋納坑から考える

講師 宍道 年弘 先生(荒神谷博物館企画員)



荒神谷遺跡(出雲市斐川町)における銅剣・銅矛・銅鐸の埋納状況について、専門的見地からお話しをしていただきました。これらの青銅器を埋めるに当たっては、特別な儀式を行い、銅剣から銅矛、銅鐸の順に埋められたとのことでした。貴重な資料を沢山準備していただきました。

演題B 荒神谷青銅器と陸の道

講師 平野 芳英 先生(荒神谷博物館元副館長)



荒神谷遺跡における青銅器のルートが北部九州にあることや荒神谷遺跡の銅剣に付けられている「x」印の謎についてお話しいただきました。銅剣の「x」印はこれまで荒神谷遺跡出土の銅剣のみに付けられていたと考えられていましたが、今日では弥生時代中期以降のわが国の各地で発見される青銅器や土器に広範囲にみられることがわかり、何のために「x」印を付けたのか、その謎がまた一段と深まりました。

第四回講座(令和三年十二月四日(土))受講者数 六〇名

会場 大社文化プレイスうらら館

主題 大型墳丘墓の出現と出雲世界

演題A 四隅突出型墳丘墓の出現と出雲の王

講師 三原 一将 先生(出雲市文化財課課長補佐)



弥生時代の西出雲には「王」が誕生し、「四隅突出型墳丘墓」というユニークな墳墓が造られました。西出雲の「王」と誼を通じる伯耆や因幡、吉備などの「王」も同じ型の墳墓を造りました。西谷三号墳(出雲市大津町)では盛大な祭祀が営まれ、各地の「王」から届けられた高級の副葬品も供えられました。

西出雲にこのような有力な「王」が出現したのは、①広大な平野があったこと、②港としての潟湖があったこと、③水路としての斐伊川・神戸川が流れていたこと、④大陸に近かったことなど、その歴史的背景についても言及していただきました。

演題B 出雲の地域首長と日本海交易

講師 岩橋 孝典 先生



(島根県埋蔵文化財センター調査第2課課長)
西谷墳墓群(出雲市大津町)から出土した外來系の土器や鉄・ガラス製品・玉類を例に、その交易ルートについて話していただきました。当遺跡から朝鮮半島系や北部九州系、北陸系の遺物が出土するのは、出雲平野が北部九州と北陸とを結ぶ中継交易の拠点的な機能をもっていたからではないかという新たな視点を示されました。受講者からは、「このような話は初めて聞いた」という新鮮な驚きの声が多く寄せられました。



第五回講座(令和四年二月二十六日(土))中止

主題 出雲の地域首長と大和政権

演題A 古墳で読みとく東西出雲の地域首長の拮抗

講師 仁木 聡 先生(島根県教育庁文化財課企画員)
一山代二子塚古墳(松江市)と大念寺古墳(出雲市)

演題B 出雲と大和政権の相克

講師 花谷 浩 先生(出雲弥生の森博物館館長)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、やむなく中止とさせていただきますました。

このような事業に助成しています！(令和三年度助成事業の事例)

多伎文化伝習館

歴史ある竹籠づくりの技術指導とその伝習

増え続ける竹林の竹を何とか有効活用できないかという思いから、平成十八年十月に出雲市多伎町の多伎文化伝習館で地元の方を講師に竹細工教室を発足しました。その後、毎年十月～二月まで月二回ずつ教室を開催すると同時に、そこで制作した作品を多伎町文化祭や多伎文化伝習館で展示しています。教室、作品展とも県内各地から大勢の方々に見ていただき、高い評価をいただいています。そのため、参加者は地元多伎町をはじめ県内全域に及んでいます。



竹細工教室の風景



作品の展示会

これまで作品制作のための道具・器具等は、講師や個人所有のものを使用してまいりましたが、この体制では作業がなかなか捗らないため、令和三年度、いづも財団から一六万円の助成金を交付していただき、竹細工に必要な道具・器具等を人数分一式購入させていただきました。こうした道具・器具等が揃ったことにより作業効率が上がリ、期間内に竹籠、海苔ぞうき、ざるなどそれぞれ多数の作品を制作することができました。また教室参加者の長年の努力と功績が認められ、このたび「令和三年度出雲市市民文化賞」を受賞することができました。これからも教室を通じて先人の優れた竹細工の技術を指導・伝習して参りたいと考えております。

最後に参りましたが、公益財団法人いづも財団様には私共の活動にご賛同いただき、助成金を交付していただきましたことに改めてお礼申し上げます。
(文責 多伎文化伝習館 館長 高田敏朗)

大田市文化協会

サツマイモを導入して領民を飢饉から救った

大森代官 井戸平左衛門の頌徳碑

大田市内の全九七基の詳細を網羅した総覧を出版

江戸時代の享保の大飢饉(一七三二年)の際、幕府の直轄地、石見銀山領の代官だった井戸平左衛門は、飢饉の被害に忠じて年貢を免除、減免したほか、代官所の米蔵を開放するなど、非常事態に即断即決の施策を次々に実行したほか、薩摩藩から甘藷(サツマイモ)を取り寄せて栽培を奨励以降、石見銀山領からは餓死者が出なかつたといわれています。数々の善政に感謝した領民は、代官没後も「芋代官」と慕い、感謝の意を表す頌徳碑を次々に建立。その数は中国地方に五〇〇基以上を数えます。

大田市文化協会では、令和二年度に市内にある頌徳碑全九七基を再精査し、一基を一ページで詳しく解説した「総覧」を作成しました。碑は、現在は人家がなくなつて道も判然としない場所にあるものや、周囲が草で覆われて見えにくくなつていたり、石がや

井戸公頌徳碑

現地調査の様子
(大田市川合町)



せたり苔が生えて彫られた文字が読めなくなつているものもあり、調査が困難なケースもありました。

当初、総覧の配布、販売をする予定はなく、大田市のHPで公開したほかは記録用としてわずかな部数しか印刷しませんでした。寄せられました。幸い、令和三年度に公益財団法人いづも財団様から助成をいただくことができ、出版して市内の小中学校などに配布できたほか、希望される方への販売も可能になりました。大きな反響をいただいで喜んでいきます。さらに大田市のふるさと納税の返礼品にも登録され、全国の皆様にも広く発信できることになりました。

(文責 大田市文化協会 会長 石賀 了)



「頌徳碑総覧」と添付の地図CD

令和4年度

いづも財団公開講座のご案内

令和3年度から令和8年度までの6年間をかけて、「出雲の歴史と地域文化」をテーマに、原始・古代から近・現代までの出雲の歴史・文化についての公開講座を開講します。1年間に5講座10講演ずつを予定しています。ご希望の講座のみの受講も可能です。随時、受付けています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

なお、新型コロナウイルス感染防止対策のためマスクの着用をお願いします。また、やむを得ず中止になる場合があります。最新の情報は、いづも財団ホームページをご覧ください。

第Ⅱ期「古代出雲の歴史と地域文化」

無料

会場は、いずれも **大社文化プレイスうらら館** です

※定員 各130名

第1回

講座テーマ “出雲国の誕生と出雲国府”

5月21日(土)

13:30 ~ 16:10

A 出雲国の誕生と「出雲国庁」発見物語
松本岩雄（島根考古学会会長）

律令制の時代に全国の国ごとに置かれた「国庁」。その所在地に不明なものが多い中、「出雲国庁」が発見されるまでの物語について紹介する。

B 出雲国府周辺の景観と古代の行政組織
高屋茂男（島根県立八雲立つ風土記の丘所長）

出雲国府の景観復元と「国・郡・郷・里」へと変わった行政組織等について考える。

第2回

講座テーマ “『出雲国風土記』の世界”

7月23日(土)

13:30 ~ 16:10

A 『出雲国風土記』の編纂と奈良時代の出雲
川島芙美子（風土記を訪ねる会会長）

風土記は、何のためにつくられたか？また、風土記にはどのようなことが盛り込まれているか、その概要について紹介する。

B 『出雲国風土記』にみる神話や伝承
錦田剛志（万九千神社宮司）

「国引き」や「黄泉の穴」、「神の湯」、「恋山」などの神話や伝承をとおして、当時の人々の願いや考え方について探る。

第3回

講座テーマ “王権神話と国造出雲氏の西遷”

10月2日(日)

13:30 ~ 16:10

A 「国譲り」神話と神賀詞奏上
平野芳英（元荒神谷博物館副館長）

記紀神話の「国譲り」並びに神賀詞奏上をとおして、出雲国造と朝廷の関係の推移を探る。

B 意宇郡の郡司国造出雲氏の西遷

平石 充（島根県古代文化センター主席研究員）

国造出雲氏は意宇郡郡司として祭祀と郡の管理に当たっていたが、やがて本拠地を杵築に移すこととなった。出雲氏の意宇郡司としての役割や西遷の理由について考える。

第4回

講座テーマ “中世社会に向けての出雲の胎動”

12月18日(日)

13:30 ~ 16:10

A 荘園と公領
井上寛司（島根大学名誉教授）

10世紀になると班田制が崩れ、新たな土地制度へと移行していった。荘園と公領（国衙領）からなる荘園公領制である。荘園の形成やしくみを出雲大社領などから考える。

B 武士の登場と出雲国

田村 亨（島根県古代文化センター研究員）

平安末になると所領支配を巡って武力紛争が頻発し、国衙では戦士集団が編成された。源義親事件や大山寺縁起絵巻等をとおして、出雲の武士の登場を考える。

第5回

講座テーマ “山岳信仰と平安仏の世界”

令和5年
2月25日(土)

13:30 ~ 16:10

A 山岳信仰と修験道の聖地・鰐淵山
高橋 周（出雲弥生の森博物館専門研究員）

平安期になると山岳信仰が盛んになり、山林にて回峯行や法華経を書写する者が増えた。鰐淵山は全国でも有数の修験者の聖地であった。平安期の鰐淵山から中世の鰐淵寺へ至る歴史的背景を考える。

B 平安仏教と平安仏の世界

的野克之（島根県立石見美術館学芸アドバイザー・松江歴史館学芸専門監）

平安期になると出雲でも密教への信仰が始まり、数多くの寺院に様々な仏像が造られた。出雲に遺る平安仏を見ることにより、その特色を考える。

1) 演題・講師は、変更になる場合があります。 2) 講演時間はそれぞれ70分間です。

受講ご希望の方は、本紙8ページのいづも財団事務局までお申し込みください。

なお、お申し込みの際には、氏名、連絡先、電話番号、希望する講座をお知らせください。

「ふるさとの森再生事業」のあゆみ②

本財団設立10周年の節目に際し、設立当初から特別事業として実施している「ふるさとの森再生事業」について、今までのあゆみを前号に続いて振り返ってみたいと思います。

平成25年度

事業初年度である平成25年度は7市町村7地区が採択された。本事業は今までの造林事業とは異なり、広葉樹を主体とする森林再生事業であり、各市町村および森林組合等にはほとんどその経験がなかった。その為、4月～5月には各市町村と個別に事業実施にむけた相談を実施、さらに7月には市町村担当者を集めて事業説明会を開催した。

その後いよいよ各市町村で施業を開始、まずは森林調査から実施した。この調査は測量だけでなく、まずは森林の現況を把握し、活用できる有用木および伐採すべき不要木を選定することも含むものである。調査後、①松くい虫被害跡地の荒廃広葉樹林に対して不良木を除去（抜き伐り）、②残存木が少なく必要な箇所には、地拵え後に広葉樹を植栽、③残存木が多く植栽の必要のない箇所には、抜き伐りした不要木を筋状などに棚積みし、天然更新を促進させる、④対象林への進入路として作業道を開設、などの施業を行った。



25年度事業を行う市町村の中でも地元・出雲市は、事業者のみならず地域住民や次代を担う子供たちとともに植樹活動を大々的に行いたいと希望されていた。出雲大社本殿遷座祭の斎行される年でもあり、本事業を県内外に広くPRする好機であるととらえ、本財団は出雲市と共催で植樹祭を開催した。

本事業における課題と対策①

今迄の造林事業では既存木を皆伐してから、スギ・ヒノキなどの苗を植栽するが多い。そのイメージがあったためか、市町村によっては将来有用の高木性樹種もほとんど残さず伐採してしまうケースが見受けられた。抜き伐り前に、伐るべき木と残す木をしっかりと選定しておかなければならない。

右の写真は大経木・小経木ともにほとんど伐ってしまった、いわゆる伐り過ぎの現場。植栽木も枠内10m四方内に15本以下の状態で少ない。(20本以上が目安)このような場合、今後切り株から萌芽してくる再生苗や、他区域から侵入してくる苗も下刈りせずに残して育てていく。常緑広葉樹があれば最優先で残し、なければ落葉広葉樹、それもなければ、カラスザンショウ・アカメガシワなどの先駆樹種を残すことも考える。そして植栽2年後以降も森林の生育状況を観察し、優先すべき樹種を残していくように対処していく。



次号へ続く

令和3年度会員名簿

(三月三十一日現在)

法人会員

Table listing members categorized by '法人会員' (Corporate Members) and '個人会員' (Individual Members). The table includes columns for member names, addresses, and organizational affiliations.

龜山捷利(宮崎県) 龜山美雪(出雲市) 嘉本直樹(出雲市) 樫野尚(松江市) 鳥田富次(出雲市) 川上英夫(東京都) 川上英男(出雲市) 川嶋ひろみ(和歌山県) 川島美美子(松江市) 川谷琴子(出雲市) 川谷誠一(出雲市) 川谷貴子(出雲市) 川谷貴大(出雲市) 川谷トヨ子(出雲市) 川谷美琴(出雲市) 川西正明(大阪府) 川本貢功(松江市) 神田幸弘(兵庫県) 神田幸則(出雲市) 木佐明宏(出雲市) 岸野恵(出雲市) 木次井悠介(出雲市) 北井加代子(出雲市) 北井征二(兵庫県) 北井武志(出雲市) 北井康正(出雲市) 北島建孝(出雲市) 北原郁子(松江市) 北吉チヨミ(大阪府) 儀満京子(出雲市) 木村進(出雲市) 共同店(大國美矢子) 喜和田公二(出雲市) 金時堂株式会社(雲南市) 金鳳酒造有限公司(安来市) 草谷和子(出雲市) 草山由梨(神奈川県) 熊山仁志(邑南町) 久家沙織(出雲市) 栗原早紀(松江市) 黒木国博(出雲市) 黒崎寿政(出雲市) 黒田潤子(出雲市) 黒田光正(出雲市) 黒目光正(出雲市) 桑原健一(出雲市) 桑原弘(松江市) 桑本巖(出雲市) 小池清尹(出雲市) 神門貞良(出雲市) 神門應勝(出雲市) 幸野谷昌人(京都府) 郷原勇(雲南市)

小槻小百合(出雲市) 小椋輝枝(出雲市) 後藤博(松江市) 後藤昌弘(出雲市) 小林一介(出雲市) 小林俊介(出雲市) 小林祥泰(出雲市) 古福克彦(出雲市) 小松博幸(出雲市) 小松育夫(松江市) 木幡均(松江市) 齊藤聡次郎(出雲市) 佐伯善巳(岡山県) 坂根善人(出雲市) 坂本正人(出雲市) 櫻井誠己(松江市) 櫻井秀暁(出雲市) 佐々木友子(大阪府) 佐々木友子(北海道) 佐々木博治(出雲市) 佐々木幸延(浜田市) 佐佐俊幸(埼玉県) 佐藤收男(出雲市) 佐藤康司(出雲市) 佐藤順平(大阪府) 佐藤辰巳(出雲市) 佐藤宣雄(出雲市) 佐藤櫛子(出雲市) 品川知彦(松江市) 篠田孝紀(出雲市) 篠原春夫(三重県) 志摩茂樹(山形県) 嶋岡智子(京都府) シマナヤ眼鏡店(飯島健太)(出雲市) 清水義久(神奈川県) 庄司和子(宮城県) 昌子宗賢(松江市) 新博治(広島県) 新安祐(広島県) 新宮清志(松江市) 新道正年(東京都) 新藤正春(出雲市) 杉谷桂子(出雲市) 杉谷城(奈良県) 杉谷寿之(松江市) 杉原敏之(出雲市) 杉原元治(出雲市) 杉本照(和歌山県) 須佐和夫(出雲市) 須佐公和(出雲市) 鈴木登美子(神奈川県) 鈴木益彦(松江市)

須谷洋(出雲市) 周藤祥三(出雲市) 角篤(出雲市) 陶山章(出雲市) 妹尾圭人(出雲市) 妹尾洋也(出雲市) 妹尾佳明(東京都) 千家昭子(出雲市) 千家礼子(出雲市) 千家浩彦(東京都) 千家国麿(東京都) 千家統子(東京都) 千家真祐(大阪府) 千家寛彦(神奈川県) 千家隆比古(出雲市) 千家典子(出雲市) 千家徳比古(出雲市) 千家幸子(大阪府) 千家出美(出雲市) 千家和比古(出雲市) 千家敬雄(大阪府) 曾田賢一(出雲市) 曾田明(出雲市) 曾田暢雄(出雲市) 曾田浩志(松江市) 曾田安信(出雲市) 園山和美(出雲市) 園山暢男(出雲市) 園山幹生(埼玉県) 園山光吉(千葉県) 園山雄一郎(出雲市) 園山幸雄(松江市) 大社門前いづも屋(出雲市) 高木玄明(出雲市) 高木秀輝(出雲市) 高塚明宏(東京都) 高野一三(出雲市) 高橋正(出雲市) 高橋敏道(出雲市) 高橋直裕(東京都) 高橋正和(出雲市) 高橋成知(滋賀県) 高見初彦(出雲市) 宅和京彦(出雲市) 竹下孝子(松江市) 竹下忠孝(出雲市) 竹下正幸(出雲市) 武田寿博(出雲市) 武田紀子(出雲市) 竹並清(茨城県) 多々納征武(出雲市)

多々納テル子(出雲市) 立久恵音頭保存会(安曇公美)(出雲市) 立花見一(出雲市) 立花佑祥(出雲市) 立花直明(出雲市) 田中和彦(出雲市) 田中勝洋(長崎県) 田中富雄(出雲市) 谷本隆也(出雲市) 多根美奈子(出雲市) 玉井浩邦(松江市) 玉木満則(出雲市) 玉木屋印刷(青木治)(出雲市) 千熊正憲(大阪府) 土江志朗(出雲市) 堤真次郎(愛知県) 津戸一(東京都) 津戸弘光(出雲市) 津戸雅志(東京都) 常松豪(出雲市) 都岡正隆(雲南市) 鶴見誠(出雲市) 手銭白三郎(出雲市) 出水明子(大阪府) 寺田直広(出雲市) 東條京子(福島県) 東條勝(福島県) 藤岡武(出雲市) 富岡由美子(東京都) 富田愛子(松江市) 富田啓司(松江市) 内藤篤雄(出雲市) 内藤久義(出雲市) 直良昌幸(出雲市) 中美智子(出雲市) 中尾克行(東京都) 中尾健二(出雲市) 長岡興服店(出雲市) 長岡栄(出雲市) 永岡達朗(出雲市) 長岡義孝(東京都) 長廻三枝子(出雲市) 中島隆広(京都府) 中島雄三(出雲市) 中島隆紀(福岡県) 中筋豊通(出雲市) 中筋俊昭(松江市) 中筋隆三(出雲市)

永瀬崇之(出雲市) 永田悦子(出雲市) 永田靖一(大阪府) 永田正巳(出雲市) 永田幸弘(出雲市) 中林裕一(出雲市) 永見鏡子(大阪府) 中道豪一(広島県) 中山宏子(邑南町) 中山光夫(邑南町) 柳楽愛子(邑南町) 柳楽正雄(出雲市) 那須央定(出雲市) 奈良井律子(出雲市) 成相和代(出雲市) 成相有一(出雲市) 成瀬敏郎(出雲市) 西家秀夫(出雲市) 西尾哲郎(出雲市) 西尾尚恵(出雲市) 西岡敦子(岡山県) 西岡剛志(神奈川県) 錦田剛志(出雲市) 錦田充子(出雲市) 錦織稔之(出雲市) 西田新治(福岡県) 新田順子(出雲市) 新田良浩(出雲市) 野田清(出雲市) 野津邦男(出雲市) 野津登美子(出雲市) 野寺菜穂子(北海道) 登川文一(沖縄県) 長谷川宗輔(大阪府) 畑美穂子(出雲市) 服部泰直(松江市) 花田敦子(出雲市) 花田史朗(出雲市) 花田智治(出雲市) 把野光貴(福岡県) 早川正樹(雲南市) 林秀樹(出雲市) 林幹夫(松江市) 原智美(出雲市) 原哲夫(出雲市) 原英二(出雲市) 春木幹雄(出雲市) 春木康弘(出雲市) 土方幸子(出雲市) 日野保朗(出雲市) 日野正(出雲市) 平岡邦彦(雲南市) 平岡昭弘(出雲市) 廣江俊邦(松江市) 廣澤將城(出雲市)

廣幡裕子(出雲市) 廣川裕徳(高知県) 福城桂子(出雲市) 福田橋実香(出雲市) 福田隆男(出雲市) 福田文夫(鳥取県) 福田真喜子(出雲市) 福田実(出雲市) 福田みゆき(鹿児島県) 福田夕貴(三重県) 福原未来(三重県) 福間進(大阪府) 福間崇夫(出雲市) 福間利行(出雲市) 福間質文(出雲市) 福村範子(松江市) 藤井健司(出雲市) 藤井孝三(出雲市) 藤井文治(広島県) 藤井隆弘(広島県) 藤井琢磨(出雲市) 藤井忠志(出雲市) 藤井知尋(出雲市) 藤井千代恵(出雲市) 藤井翔愛(出雲市) 藤井寿男(出雲市) 藤井正成(出雲市) 藤井雄治(出雲市) 藤井雄四郎(出雲市) 藤井幸恵(出雲市) 藤井豊(出雲市) 藤江啓子(出雲市) 藤田佳子(千葉県) 藤原久一(出雲市) 藤原章司(出雲市) 藤原照久(出雲市) 藤原徹(出雲市) 藤原秀彬(出雲市) 藤原光子(出雲市) 伏見利雄(神奈川県) 伏見梨花(神奈川県) 藤村八郎(山梨県) 藤本和人(出雲市) 藤本祥(埼玉県) 藤本剛(出雲市) 古川百三郎(出雲市) 古瀬修一(松江市) 古瀬眞史(邑南町) 古瀬俱之(出雲市) 古瀬麻美(愛知県) 古屋勤士(出雲市) 古山房雄(松江市) 別所親房(出雲市) 別所豊夫(出雲市) 細木辰幸(雲南市)

法橋美智子(出雲市) 本田研治(出雲市) 本田亘(出雲市) 前高和枝(出雲市) 前田流依(出雲市) 横原政治(出雲市) 増浦行仁(大阪府) 松井邦江(出雲市) 松井恵治(出雲市) 松井笙悟(東京都) 松井周子(出雲市) 松井誠(出雲市) 松井好夫(出雲市) 松崎忠司(出雲市) 松崎道子(出雲市) 松崎みどり(奥出雲町) 松崎幸枝(奥出雲町) 松田幸典(出雲市) 松戸恵美子(出雲市) 松永直道(山口県) 松野千代(岐阜県) 松野巨芳(岐阜県) 松原希(出雲市) 松原廣美(出雲市) 松本岩雄(松江市) 松本健志(出雲市) 松本浩治良(出雲市) 松本左恵子(出雲市) 松本倫枝(出雲市) 松本倫枝(大田市) 野克之(益田市) 馬庭孝司(出雲市) 水野二郎(滋賀県) 三原順一(兵庫県) 三原順子(出雲市) 三原伸二(出雲市) 三原道夫(出雲市) 三村智彦(千葉県) 宮崎照司(静岡県) 宮里慎二郎(大田市) 宮本亮充(出雲市) 宮本泰行(出雲市) 森口正夫(邑南町) 森田勝瀧(高知県) 森本いく子(松江市) 森本淳(松江市) 森山直知(出雲市) 森山真吉(出雲市) 森山由美(出雲市) 森脇哲之(松江市)

矢島健一(千葉県) 矢田和則(出雲市) 矢田信一(出雲市) 奴(原田優)(出雲市) 八巻秀徳(出雲市) 山崎孝子(出雲市) 山崎一夫(出雲市) 山崎敬子(出雲市) 山崎酒店(出雲市) 山崎茂樹(出雲市) 山崎尚子(出雲市) 山崎七重(出雲市) 山崎春美(出雲市) 山崎泰弘(兵庫県) 山下信(鹿児島県) 山田聖子(神奈川県) 山根正明(松江市) 山根宮子(出雲市) 山根幸文(出雲市) 山根芳館(出雲市) 山本智幸(東京都) 山本浩(東京都) 山本勇二(出雲市) 山本豊(京都府) 八幡一寛(大田市) 有限会社ギフトなが(出雲市) 祐源敦好(出雲市) 祐源澄子(出雲市) 祐源美喜子(出雲市) 祐源泰成(出雲市) 横山雅樹(岡山県) 吉川敏夫(出雲市) 吉川直喜(出雲市) 吉川實(出雲市) 吉田勝彦(出雲市) 吉田龍彦(岡山県) 吉田敏夫(出雲市) 吉田博晴(出雲市) 吉田ひろみ(岩手県) 吉田安子(出雲市) 吉田利江(雲南市) 吉野直人(岐阜県) 吉野洋克(出雲市) 吉原毎文(東京都) 珍部千裕(神奈川県) 米田拓朗(出雲市) 若月剛久(出雲市)



寄附
 出雲大社御遷宮奉賛会 (出雲市)
 大社史話会 (出雲市)
 吾郷統一 (出雲市)
 井上志帆子 (東京都)
 岡田春雄 (大阪府)
 喜和田公二 (出雲市)
 鈴木登美子 (神奈川県)
 高橋陽子 (滋賀県)
 藤原秀彬 (出雲市)
 山崎裕二 (出雲市)
 若槻俊二 (出雲市)
 若月俊正 (出雲市)
 和田晶夫 (出雲市)
 和田耕一郎 (松江市)
 和田晋爾 (松江市)
 和田節子 (出雲市)
 和田統彦 (松江市)
 和田秀穂 (出雲市)
 渡邊憲治 (京都府)
 渡部しずか (出雲市)
 渡邊喬士 (出雲市)
 渡部輝之 (出雲市)
 渡部良治 (出雲市)
 渡部良平 (松江市)
 (個人会員計六二五名)

あなたが支える「出雲」文化!

先人たちから受け継いだ美しい自然風土や歴史、伝統文化を現代に生かして地域の活性化に結び、それを子孫に橋渡しをする担い手になることを使命とします。

会員を募集しています!

◆入会について

会費は、年度制(4月～翌年3月)です。いつでも入会できます。

※「出雲」文化を愛する人は、どなたでも会員になれます。

(注)ここでいう「出雲」とは狭義の出雲ではなく、隠岐から石見までを含む幅広い地域を想定しています。

◆会員の種類・年会費

正会員(個人) 一口 2,000円 正会員(法人) 一口 20,000円 (何口でも結構です。)

◆会員の待遇

- 会員証をお送りします。
- 下記の協賛施設にて会員証を提示いただくと、優遇措置が受けられます。
 - ・出雲大社宝物殿(拝観料無料、翌年4月末まで有効です)
- 定期的に会報「財団いづも」をお送りします。
- 講演会・シンポジウム等の各種イベント開催のご案内をいたします。

◆入会方法

- 1、会員申込資料を電話かファックス、葉書、メールにてご請求ください。または、直接いづも財団事務局までおいで下さっても結構です。
- 2、送付された入会申込書に必要事項をご記入のうえ、返信用封筒またはファックスにてお送りください。
- 3、下記口座のいずれかへ会費をお振込ください。

【郵便局】(現金振込みの場合は加算料金がかかります)

同封の郵便局払込票にてお振込ください。

郵便振替口座番号 01360-9-55417

口座名 「公益財団法人いづも財団」

(コウエキザイダンハウジン イヅモザイダン)

【銀行】(手数料はご負担願います)

山陰合同銀行 大社支店 普通 3628973

口座名 「公益財団法人いづも財団」

(コウエキザイダンハウジン イヅモザイダン)

お問い合わせ

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東283 大社國學館内 公益財団法人いづも財団事務局

電話：0853-31-4346 F A X：0853-31-4348 E-mail：info@izumozaidan.or.jp